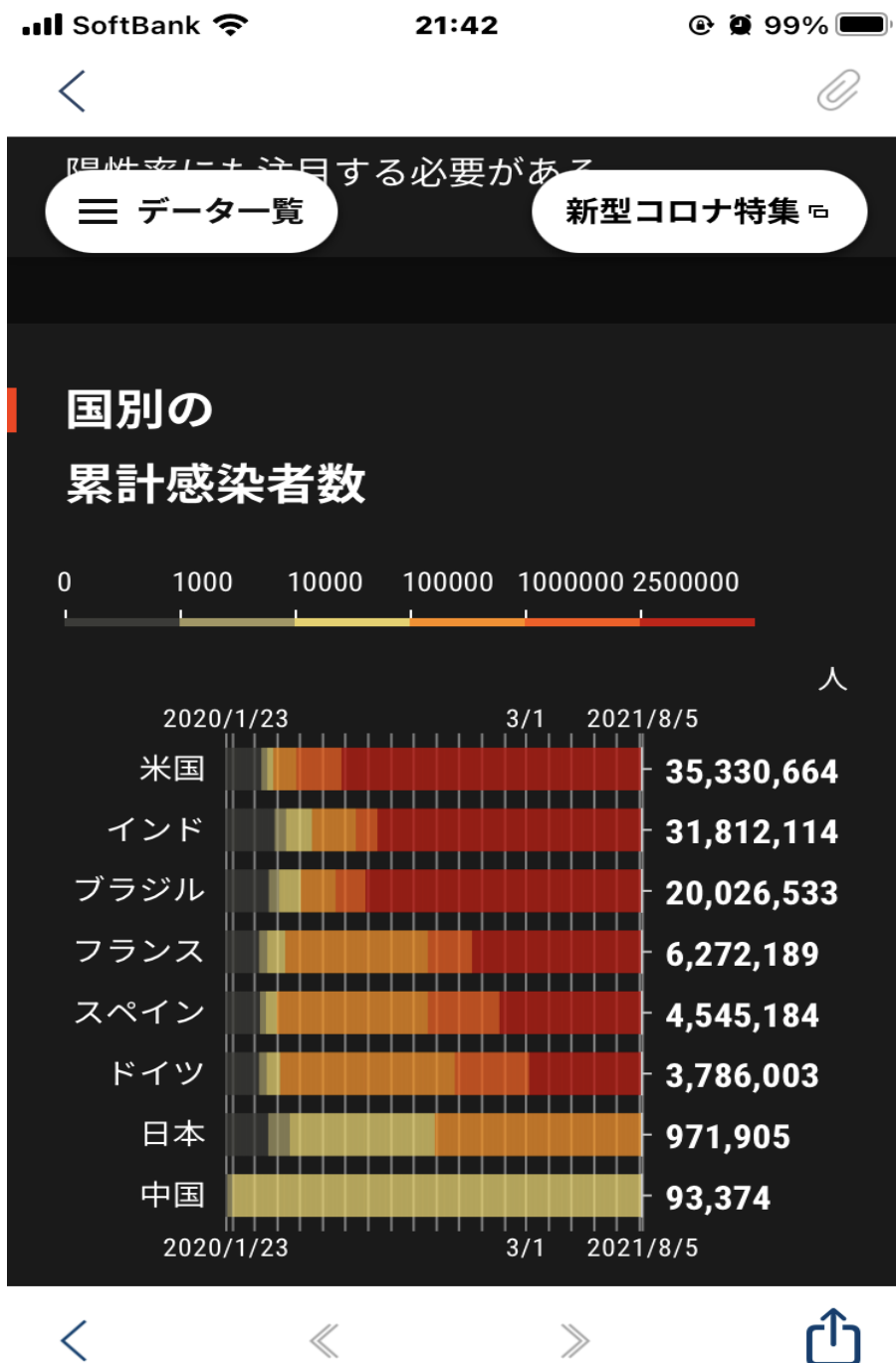


原爆の日の今朝、うちのせんが蝉の声をうるさいと言って吠えて目がさめてずっとかながえていることである。以下の文献は、図は全部去年から大変お世話になっております日経のコロナのチャートで、対数などは、ニッセイのホームページやその他のみなさんの対数、時々お世話になるKeisanの計算サイトなどのお陰様です。まあ、半分夢みたいなことですから、きちんと文献あげずに引用してもうしわけありません。Masa

世界で見ても図のように他の西洋諸国とは、やや少ないドイツの25%と感染人口が多い。



日本の累計感染者が10000を超えるのは、21年4月なかばあたり。現在は、単位が欧米と同じになっているし、そのプロフィールは、増加の一途である。現在アジア諸国での感染爆発を考えれば、これ以外の国の増加は著しいものの、数的やプロフィールは、ロシア、英国の累積とは、明らかに相似である。

SoftBank

21:43

99%

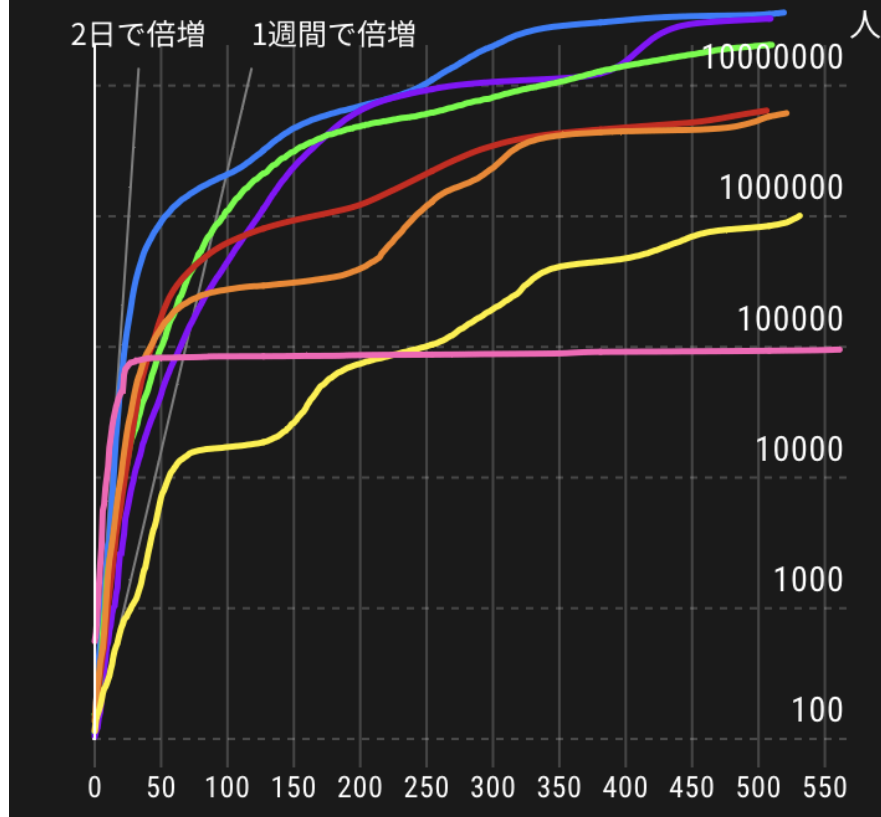


データ一覧

新型コロナ特集

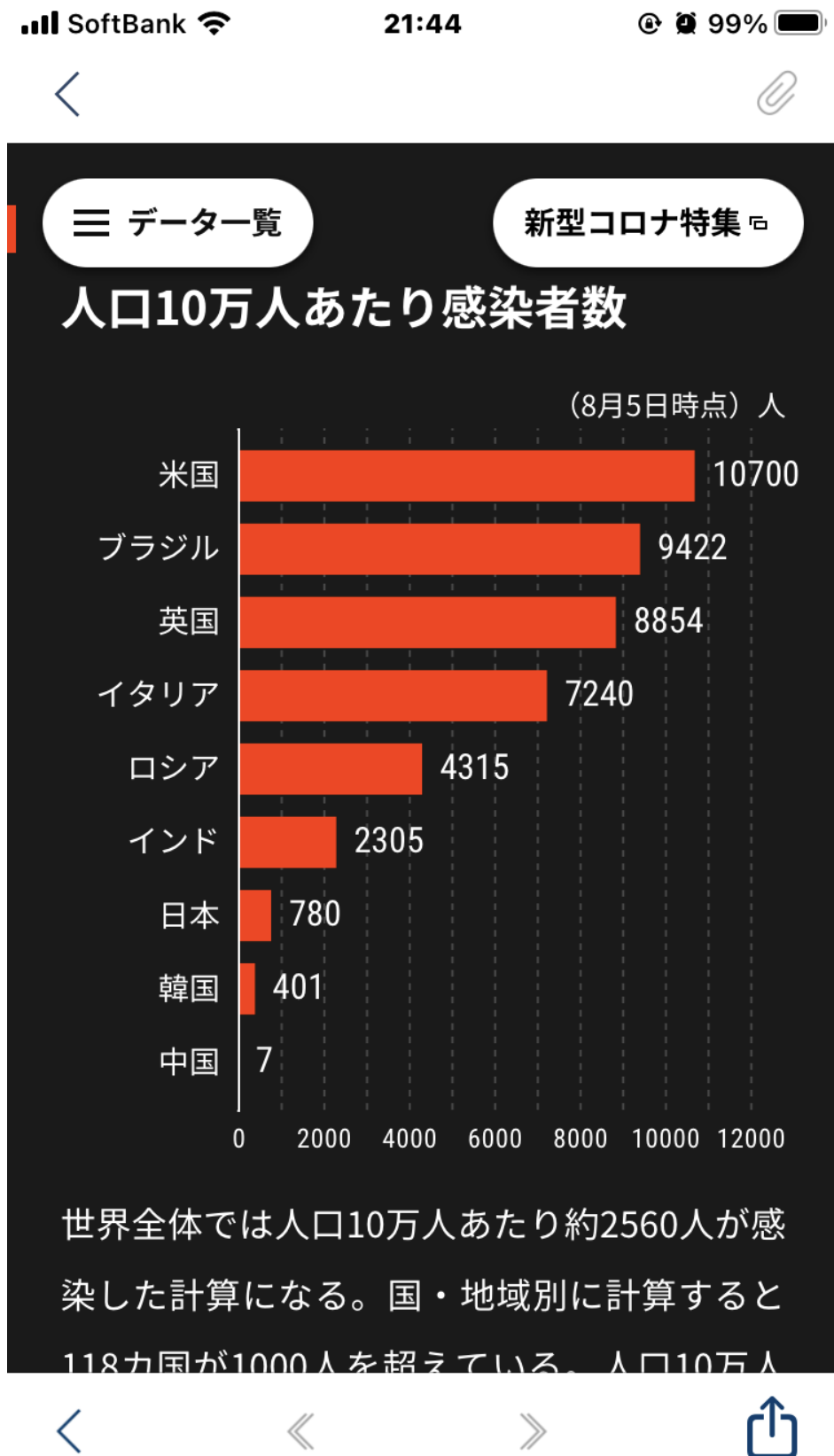
国別の 累計感染者数の増加ペース

■ 米国 ■ インド ■ ブラジル ■ ロシア ■ 英国
■ 日本 ■ 中国

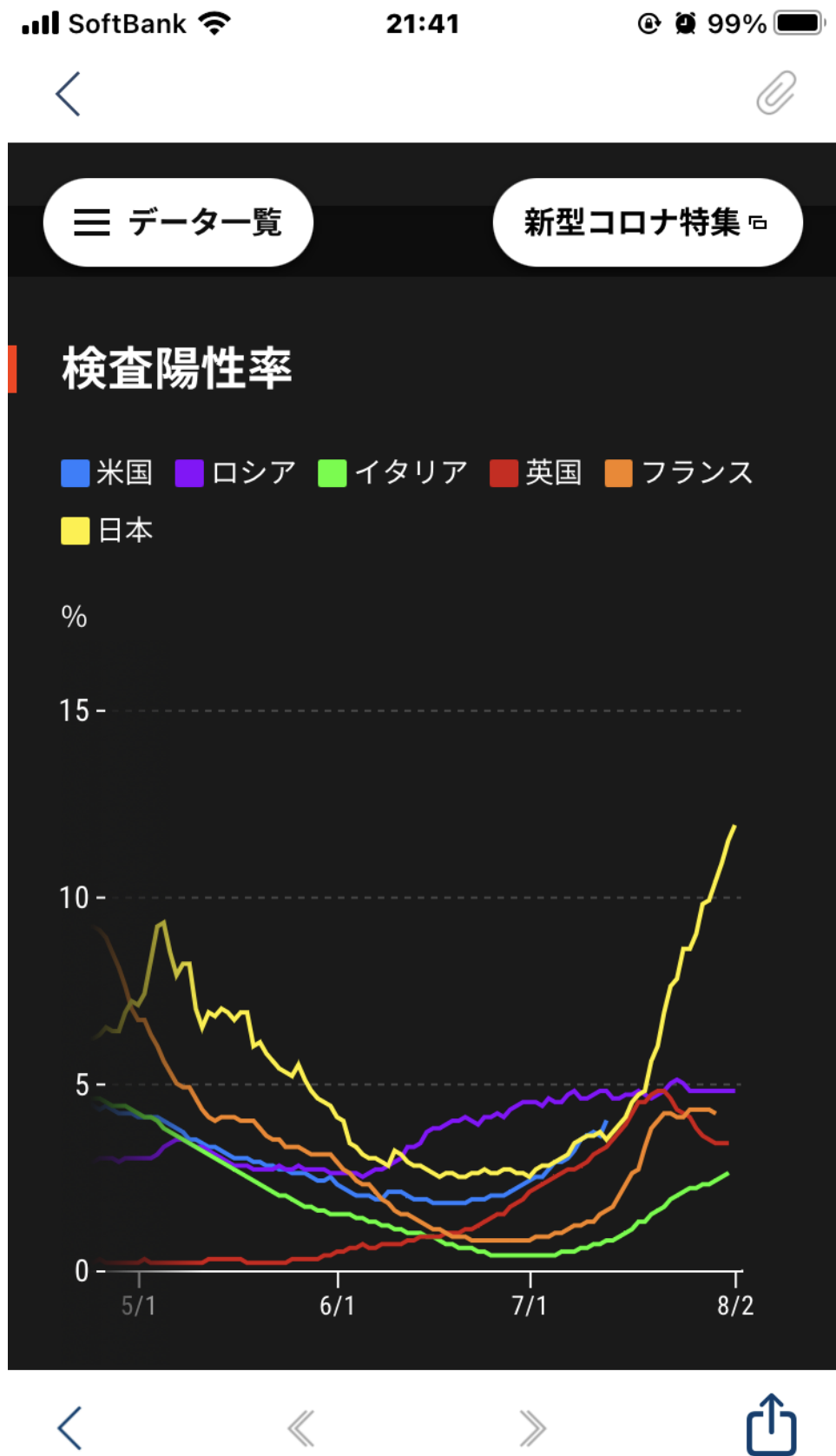


(著者注；まー ネピア数のグラフではないのか)

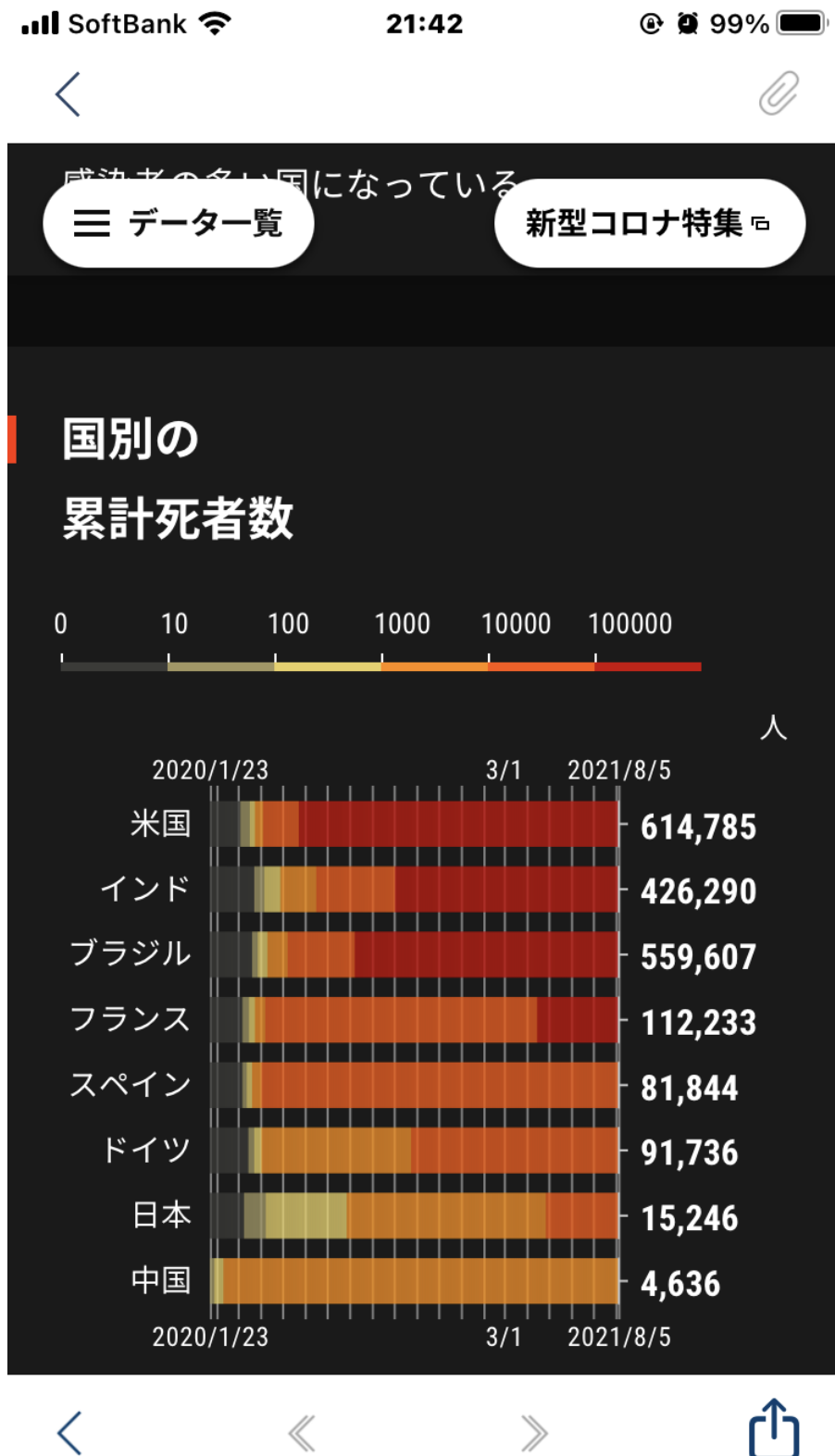
単位人口あたりの感染者数では以下のものであるけれども、インド並みになるのは、遠くない。



しかしながら、世界の感染率（PCR検査を抑制していない）を最大5%とすると、日本のそれは2倍を超えているのであり、単純に計算すると、正しい感染率を5%とすると、仮にフランスと同等だとすれば、その当日に5000人の感染があれば、その母数となる人口は10万人で計算されるから、母数を合わせると、日本のその日の感染は少なくとも2倍つまり、最低でも10000人感染していることになる。



さらに死亡率もドイツの約17%であり、少なくとも桁が違うほどの差はなく、致死率も（下々図）先進国並みである事、また上述のように累計感染者もドイツの25%であることを考え合わせると、現在の約10000人の発表は、少なくともその倍の20000人であろうことは、想像でもなく実数に近いと考えられる。





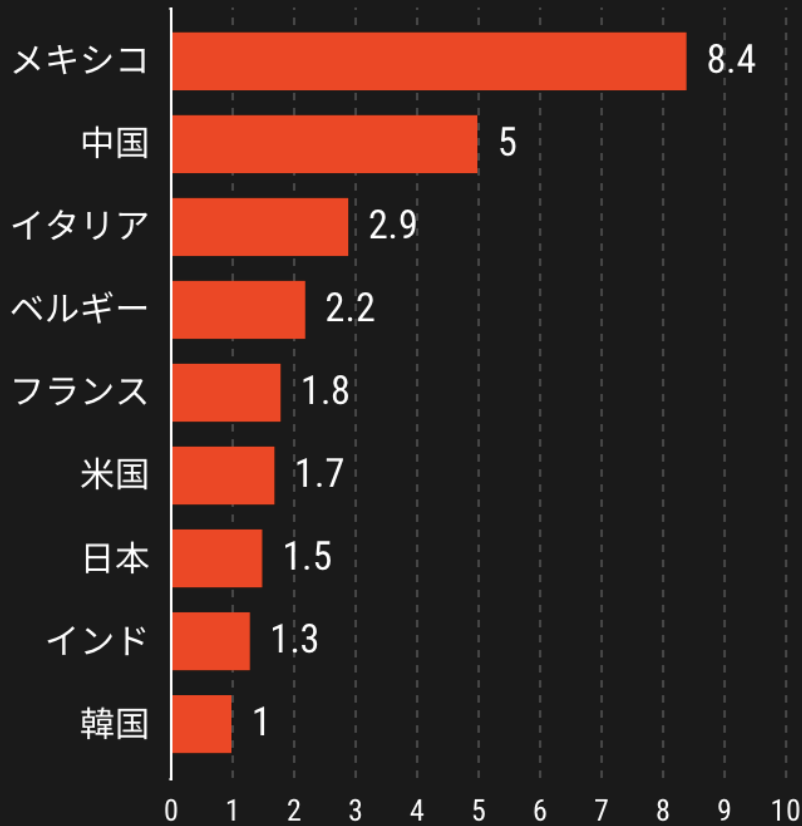
た中国は87日目から横ばいが続いている。

データ一覧

新型コロナ特集

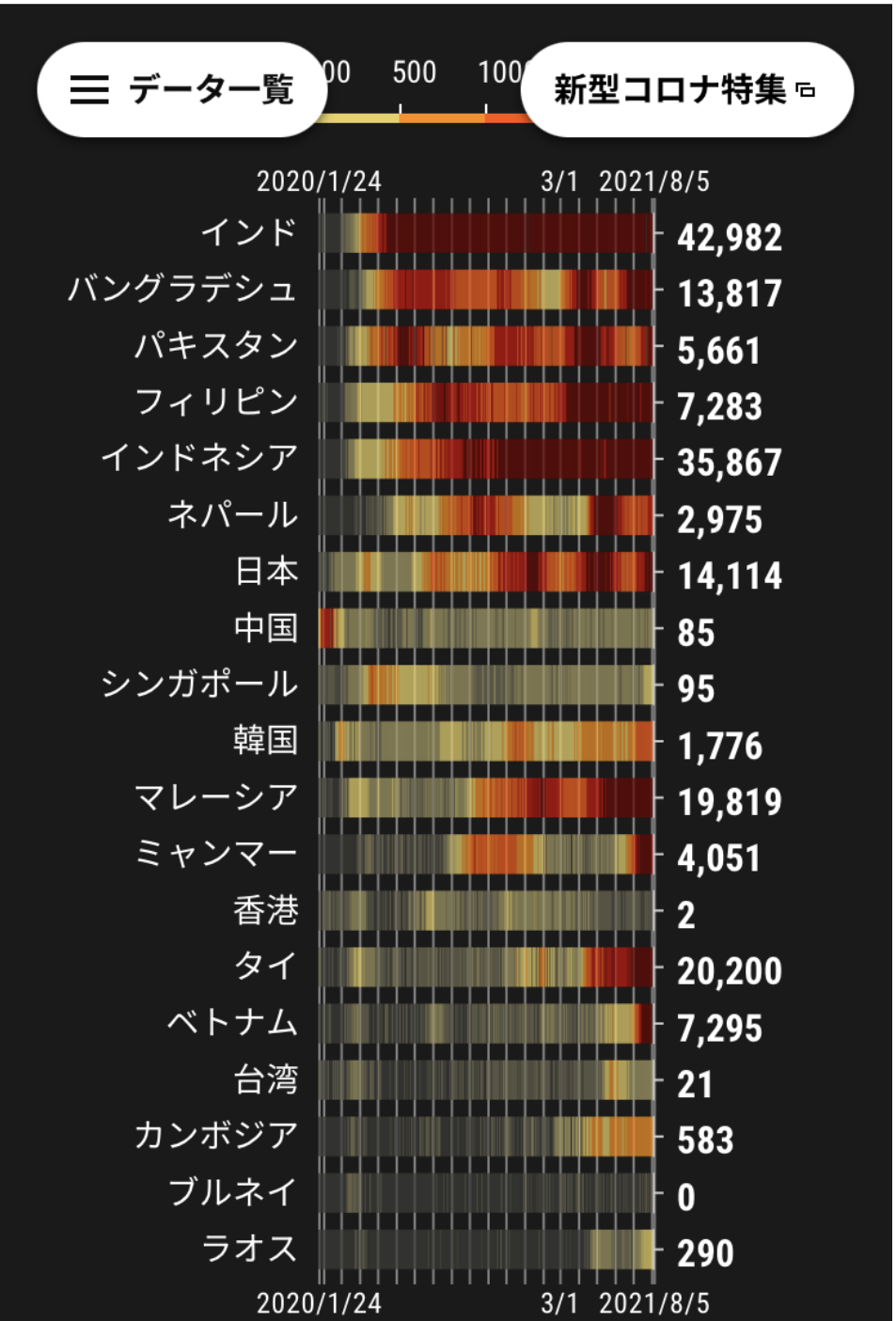
国別の致死率

(8月5日時点) %



また、アジア諸国と比較すると、インド、インドネシアに次いで5番目に日本が入っているが、その人口比は、Googleのものでそれぞれ13.66, 2.71, 1.26なので、人口比は0.003%、0.013%、日本はそれに対して14114 (28228) 割る 126000000なので%に換算すると0.011% (0.022%)

となるから、インドネシアと同等の新規感染者であるから、()内の示すように仮に感染率を先進国なみに揃えれば、0.02%で、インドネシアの倍の感染、人口の少ない国、例えば新規感染者が583に対して16490000の感染率が丁度0.0035(桁を合わせると0.004%)のカンボジア王国などの実に7倍の新規感染者数となる。



それらを裏付けるように累計死者数もインドについて、続増しており、ベトナムや、台湾などの低い状態が続いたのち、一期に爆発する国のようではない。

Log

SoftBank

21:48

98%

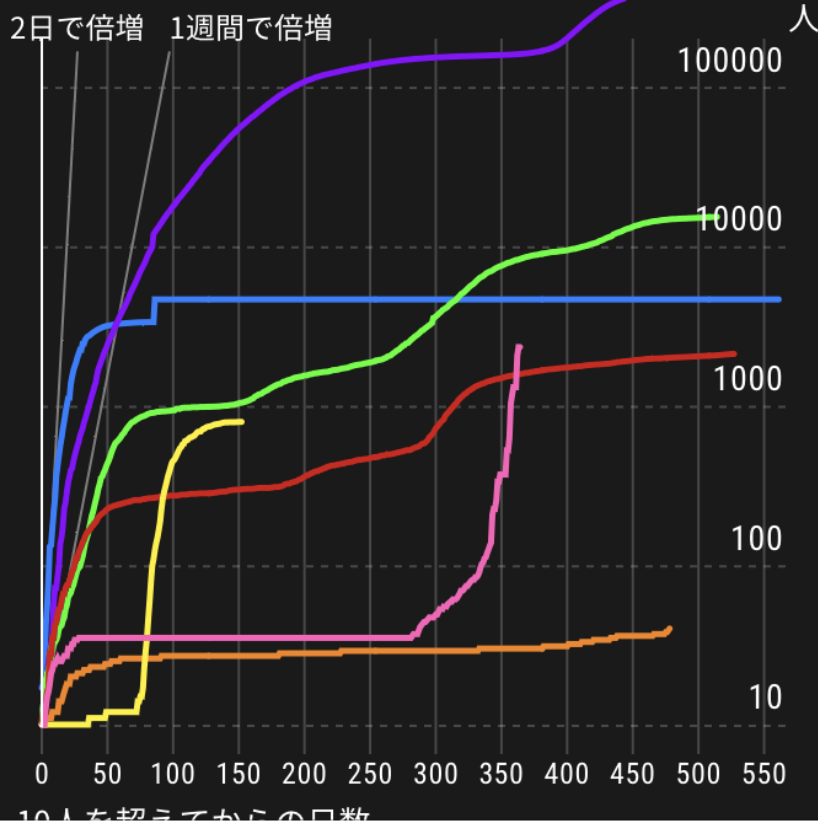


データ一覧

新型コロナ特集

アジアの 累計死者数の増加ペース

- 中国
- インド
- 日本
- 韓国
- シンガポール
- 台湾
- ベトナム



結局、結論としては、現状、ワクチン接種率も考え合わせても、高齢者の重症化の減少をのぞけば、日本の感染実態は、第1波開始から、累計が10000人を超えたところから、つまり2番目の図のように累計が10の2乗を超えてから50日位で10の4乗（つまり 10^2 のダブル）それから約500日で10の7乗（ $10^2 \times 10^2 \times 10^2 \times 10^1$ ）となっている。この一致がなにかぼーっとかんがえていると、数学苦手な私としては、ついに理解できず挫折した自然対数 ティッシューの名前ならぬネイピア数 $e=2.718\dots$ を思い出す。

Keisan というサイトで計算すると、

自然対数 ($\ln(1) = \log_e 1 (=10^0) = 0$), 同様に $\log_e 10 (=10^1) = 2.3026$, $\log_e 100 (=10^2) = 4.6052$, $\log_e 1000 (=10^3) = 6.9078$ $1000 (=10^3) = 6.9078$, $\log_e 10000 (=10^4) = 9.2103$ これていくと $\log_e 10000000 (=10^7) = \log_e 1000 + \log_e 10000 = 6.9+9.21=16.118 \dots\dots$

つまり、どの国もこのグラフの通りのプロフィールで増えているように私には見える。簿記というか、金もうけの好きな人は、複利計算でどんどん更新回数を増やしても、結局その、ネイピア数 $e=2.718$ に収束していく、つまり複利でどんどんふやしたくても元利の2.7倍が限度、みないなことを思い出すかもしれない。このニッセイの基礎研究所のホームページに解説してあることを自分のつたない記憶をたどって補完すると、自然界の掟、 $y=1/x$ の対数のグラフで、1からeまでのxの横軸では、微分の面積が1になる、みないなことで、高校の時に挫折したが、コンピュータプログラミングを始めたら、直観的には解った気がする事実（または勝手な思い違い）に照らせば、いまのCovid19の増え方は、まったく自然の法則に沿っているという印象だ、ということだ。正しいかどうかは、数学が得意な人に頼りたい。私は、数学苦手でもなれる唯一の科学者（のはず）である医者なので。

日本政府は、何もしていないようにずっと思ってきた。こんどの自宅療養どうのと言う、独断の決定は、現場一筋の人間には、大変かなしい。

けれども、私は、どちらかと言うと楽観主義者で、今日もついこのことを考えながら、運転してうちのカンボジア人の秘書の買い物を手伝って駐車場にいたら、そこが、ものすごい人出の大型商業施設であることにハット気づいて、慌ててなぜか奥さんに報告。二人でえらくドヤされて、反省したのだが、という要らないことを書かなくても、

どうやっても、Sars-Cov-2 ウイルスは、予防（生活習慣の変更とワクチン）と治療（点滴用抗体薬なども含めるが、タミフルレベルの内服薬の登場）が行われない現状では、今の日本のみならず、見た目対策をおこなっているように見える欧米やイスラエルも含めて、「今の時間のペースで進行すれば」ウイルスの2週-8週程度の変異可能性（epigenesis phenomenon）という遺伝子の変化にヒト（遺伝子の無駄が多すぎる!）も人もついて行けず、世界中で着実に行きつくところまで行くということのように見える。2021年原爆の日ー安らかにねむってください（NPT!）ー